

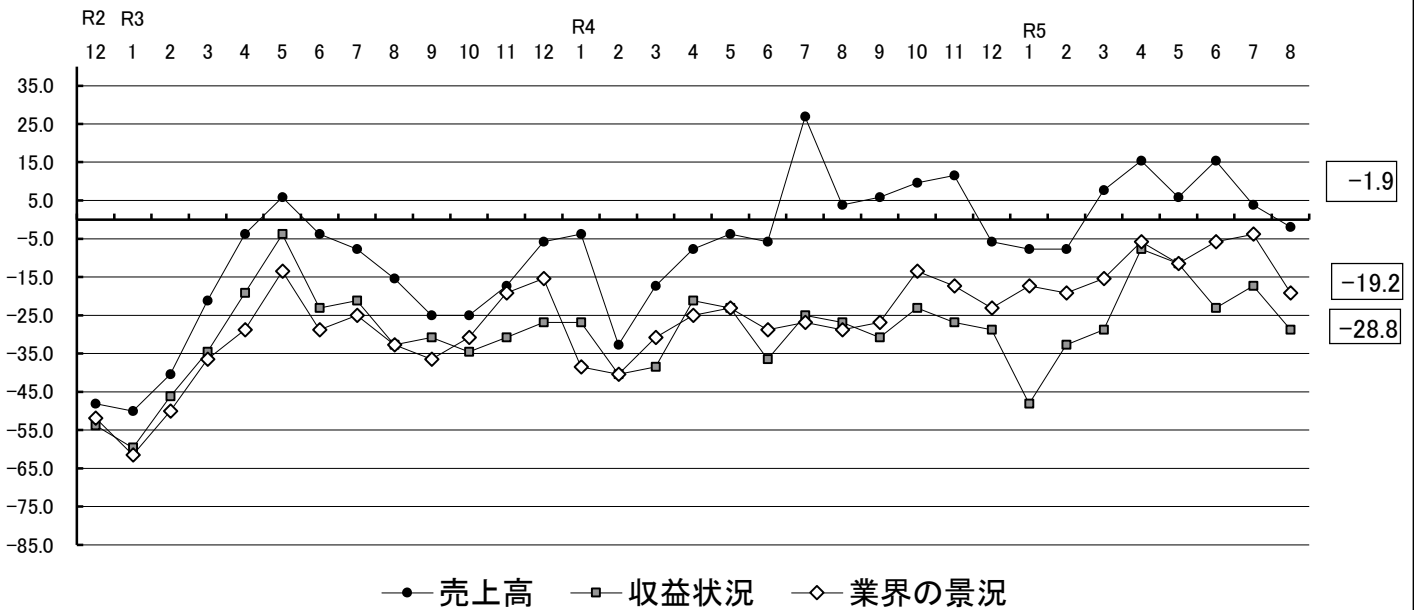
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和5年8月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は、売上高・収益状況・景況のすべてにおいて下降した。
- 全業種で人手不足の影響が出始め、設備操業度の悪化が顕著である。また、度重なる物価・燃料費高騰による経費増で、価格転嫁しても追いつかず、依然として苦境に立たされている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-1.9	-5.8	-1.6	-5.2
収益状況	-28.8	-11.5	-25.3	-2.7
業界の景況	-19.2	-15.4	-20.5	-3.9

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より5.8ポイント下降し、-1.9ポイントとなった。全国においては、前月より5.2ポイント下降し、-1.6ポイントとなった。

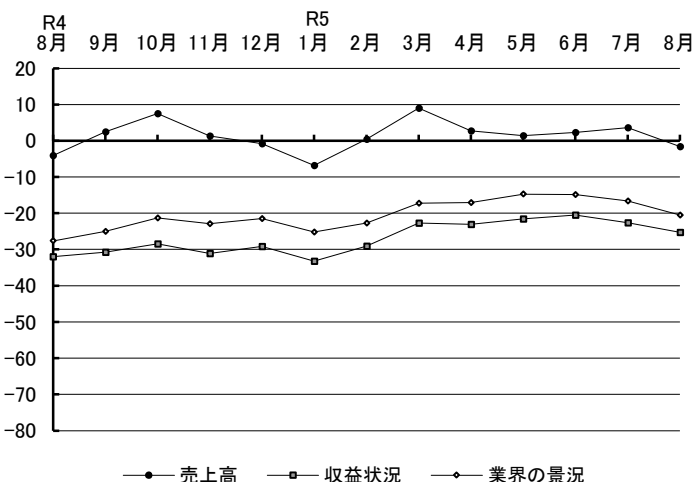
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より11.5ポイント下降し、-28.8ポイントとなった。全国においては、前月より2.7ポイント下降し、-25.3ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より15.4ポイント下降し、-19.2ポイントとなった。全国においては、前月より3.9ポイント下降し、-20.5ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

8月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中7指標が下降した。主要3指標は「売上高」は-5.8ポイント、「収益状況」は-11.5ポイント、「業界の景況」は-15.4ポイント、とすべて下降した。

製造業では、「食料品製造」がコロナ禍の行動制限から解放された消費者の反動と夏休みが重なり、イベント等の復活が各地で盛り上がりを見せ、飲食関連の消費活動が活発化し好調である。しかしながら、季節要因による活性化は一時的であり、先行きは不安定である。

非製造業では「卸売業」「小売業」などイベントに関連する業種が比較的好調である。「運輸業」は止まらない燃料費高騰などによりこれまでの好調に陰りが見え始めている。LRT（次世代型路面電車）の開業で今後の動向が注目される。「建設業」は依然として厳しい状況が続いている。

ほぼすべての業界で、物価高・燃料費高騰による負担増により疲弊している。価格転嫁しても、繰り返すコスト増に追いつかない。また、人材不足や業界の高齢化による不安の声も絶えない。インボイス制度や電子帳簿保存法、最低賃金の上昇など、労務面での負担も増大し、さらに厳しい経営環境を強いられている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	100.0	0.0	50.0	-25.0	-25.0	-25.0	25.0	0.0	25.0
繊維・同製品	50.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0
木材・木製品	-50.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-75.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	-25.0	-25.0	75.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0	0.0	-50.0
鉄鋼・金属	0.0	-50.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0
一般機器	-25.0	25.0	-25.0	-25.0	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0
製造業	4.0	-8.0	28.0	-8.0	-28.0	-12.0	-20.0	-4.0	-24.0
卸売業	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	/	-33.3	33.3
小売業	-28.6	-28.6	-14.3	-28.6	-57.1	-28.6		-14.3	-28.6
サービス業	0.0	/	16.7	-33.3	-16.7	-33.3		-16.7	-16.7
建設業	-20.0		20.0	0.0	-60.0	0.0		-20.0	-40.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
その他	0.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-7.4		-20.0	11.1	-14.8	-29.6	-14.8	-14.8	-14.8
全体	-1.9		-11.4	19.2	-11.5	-28.8	-13.5	-20.0	-9.6

図表2 【指標別DI値の推移】

	4年				5年				前月比					
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月
売上高	3.8	5.8	9.6	11.5	-5.8	-7.7	-7.7	7.7	15.4	5.8	15.4	3.8	-1.9	-5.8
在庫数量	-5.7	-14.3	5.7	5.7	-5.7	2.9	2.9	-2.9	5.7	0.0	-8.6	-11.4	-11.4	0.0
販売価格	30.8	30.8	36.5	34.6	30.8	23.1	25.0	36.5	30.8	36.5	34.6	30.8	19.2	-11.5
取引条件	-9.6	-13.5	-7.7	-11.5	-7.7	-11.5	-9.6	-11.5	-9.6	-7.7	-13.5	-15.4	-11.5	3.8
収益状況	-26.9	-30.8	-23.1	-26.9	-28.8	-48.1	-32.7	-28.8	-7.7	-11.5	-23.1	-17.3	-28.8	-11.5
資金繰り	-25.0	-21.2	-15.4	-21.2	-21.2	-30.8	-17.3	-19.2	-9.6	-11.5	-15.4	-11.5	-13.5	-1.9
設備操業度	-12.0	-12.0	4.0	12.0	0.0	-4.0	-8.0	-8.0	-0.0	-0.0	8.0	12.0	-20.0	-32.0
雇用人員	0.0	-1.9	-3.8	-5.8	-3.8	-1.9	-3.8	-7.7	-3.8	-7.7	-5.8	-7.7	-9.6	-1.9
業界の景況	-28.8	-26.9	-13.5	-17.3	-23.1	-17.3	-19.2	-15.4	-5.8	-11.5	-5.8	-3.8	-19.2	-15.4

特記事項

情報連絡員報告（令和5年8月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	業種がら、今年の猛暑が厳しい。また、幾分の増加はあるが、消費が先細りである。
	めん類製造業	お盆の時期までは県内各地でのイベントが復活し、人出と共に経済的にも活気が出て、仲間の同業者にも良い影響が出てきている。得意先の飲食店関係で売掛金の支払時期遅延の悪化が生じている。飲食店の経営も時給アップによる人件費の上昇、店のスタッフの人手不足等で、苦しいのではないかと推測している。また、続いている原材料資材の高騰やエネルギーコストの高止まり、配送関係のガソリン・軽油等の国の補助の減額からかなりのコストアップが続いており、我々の仲間の経営に圧迫が続いている。地元栃木県においては、自動車社会なので、生活にも支障が出る可能性が高くなってきた。
繊維工業	縫製業	秋物の注文が昨年より減少している。客先のオーダー数量、展開型数も減っており厳しい状況だ。引き続き生産数量の確保に全力を尽くす状況が続いている。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	昨年同時期に比較し、サンプルや問い合わせの件数は増加している。取引先との会話の中でも昨年までの動きとは違う旨の発言が多く見られ、今春のシーズンに期待したいところではあるが、大きな数字に繋がるかどうか、まだ確信は持てない。様々なモノの高騰はまだ続いており、加工所の廃業も重なり資材調達も一層厳しくなっている。
木材・木製品	建具製造業	過度な円安により輸入資材が再高騰、さらに電力費・ガソリンなど経費も上昇し、価格転嫁が追い付かない。また、連日の猛暑により生産効率も上がらず、厳しい夏となった。
印刷	印刷業	元々需要が落ちる閑散期ではあるが、本年は特に落ち込みが激しい。コロナ禍を経て、デジタル化が進行し更に印刷需要が減り続けている。
窯業・土石製品	石灰製造業	昨年に比べ、鉄鋼向け・建材関係は増加、肥料関係は価格変更の影響により減少した。全体では、昨年に比べ若干減少した。
	陶磁器・同関連製品製造業	8月は盆休みがあり組合も6日間休みとした。そのためか、先月より売上が下がり粘土の在庫も少なくなっている。後半になり員外者の売上は伸び気味だ。これから陶器市に向け組合員の操業も増えてくると思われる。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車メーカーの夏季休業も長期化にあり稼働も少なく減産となった。盆休み前は台風の接近に伴い台風対策に備えたが被害なく済んだ。盆休み明けにコロナ感染が拡大しており、生産体制にも影響が出ている。市内は盆休みの帰省や、各団体の会合などで外食の機会も増えたが、タクシー・代行が激減のため1～2時間待ちの状態だ。電気料金高騰の次は、ガソリン高騰と経費が上がる一方で業種により価格転嫁もできず経済の活気を感じない。人件費アップや賞与の話題は、都内と地方の格差を感じる。
	金属製品製造業	エコ給湯器の売上が、得意先の生産調整のため下方修正（日立 GLS、三菱電機共）。
一般機器	一般機械器具製造業	前年同月と比較しほぼ前年同様。相変わらず仕入資材の状況は高値止まり傾向が続いており、電気料・消耗品等の更なる値上懸念や全般的な物価上昇の経営不安もある。これに対し販売価格の転嫁が来ている企業もあるが、企業間でまちまちの状況である。収益状況についても全般的に不変といった企業が多く操業度（稼働）についてもほぼ前年同様。今後のロシアによるウクライナ侵攻等による政情不安や化石燃料の更なる上昇や物価上昇等の懸念材料が相変わらず多い。
卸売業	各種商品卸売業	引き続き一部業種を除き売上高、収益、業況等は前年同期に比べ好転とする企業が多い。雇用人員も増とする企業もある。

	各種商品卸売業	業種・取扱商品によって流通量の増減に差がある。物価高騰や燃料価格の上昇が続いており、収益を圧迫している。従業員の人員確保が難しく、募集をかけても集まりにくい。
小売業	各種商品小売業	8月上旬の宇都宮の祭り「宮まつり」が4年ぶりに再会され、コロナ以前にも増し多くの人出があった。飲食店では、過去最高の売上を記録する店もあった。
	各種商品小売業	婦人衣料など、コロナ禍において最も影響を受けていた業種は回復基調になってきた。反面、サービス業種の落込みが著しく、業種による特色が色濃く出た形となった。イベント等の客足も賑わいを見せており、全体としては回復傾向にあると前向きに捉え、販促を仕掛けていく。
	花・植木小売業	8月お盆商戦は花材の調達に苦労した組合員も多い。気候の影響で高品質花材が特に入手困難。高値、絶対数の不足。燃料費の高騰、輸送費の問題などで生産者の数も減少傾向にあるのも今後の心配材料。
サービス業	自動車整備業	法人車両の入庫増もあり、売上高の増加が見られた。
	ビルメンテナンス業	ビルメンテナンスでスポットの清掃・除草・エアコンクリーニングなどの仕事が増えている。宅配関連の仕事は、前年比微減の状況である。
	給食センター	売上高が減少しないように、維持拡大に努めているが、物価高、エネルギー高の影響で収益改善には至らない。商品の価格改定もこれまでも都度行っているが、繰り返すコスト増に追いついていないのが現状。人員の見直しも行い、経費削減にも努めているが、最低賃金の上昇も控えており、効果が出辛い。
建設業	職別工事業	前年度より続く円安、原材料費の値上げにより収益面においては悪化の傾向にある。また、業界の高齢化・若手の人材不足など、今後も厳しい状況が続くものと思われる。
運輸業	貨物自動車運送業	木材加工品輸送、鉄鋼等の輸送量は減少しているが食料品や日用品については概ね横ばい状態である。多くの荷主企業が運賃の上昇を受け入れているが、燃料の高騰に追いつかず収益を圧迫している。自動車の消耗品やタイヤ価格も高騰しており、先行きが不安との声も聞かれる。
	貨物軽自動車運送業	全体の荷物量は減少している。そんな中でも新規のお客様からのお問合せが増えてきているのが心支えになっている。運送業への「宮の運送事業者等緊急支援金」が非常にありがたいとの声が多く、燃料費高騰が苦しい。
	一般乗用旅客自動車運送業	8月26日「宇都宮ライトレール（宇都宮LRT）」宇都宮駅東口から芳賀町間が開業され栃木県内や他県からもお客様が大勢見え賑わいを見せている。LRT開業当初はイベント等もあり売上が増えた。しかしながらタクシー利用者は増えておらず、芳賀町方面勤務の方々もLRT利用者が多く見受けられ、これからのタクシー業界が不安になっている。
その他の非製造業	大谷石採石業	この夏は暑いためか、観光客が歩いていない。